

生物多様性ぐんま戦略進捗状況調査(平成29年度事業) 県の主な取組

基本戦略	県の取組	平成29年度の主な取組状況	今後の方針・課題
1 生物多様性の価値の浸透	環境学習の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・尾瀬学校:群馬の子供たちが一度は尾瀬を訪れ、質の高い自然体験をすることにより自然保護の意識を醸成するとともに、郷土を愛する心を育むことを目的として、小中学校が尾瀬において少人数のグループでガイドを伴った環境学習を実施する場合に補助金を交付した。 ・県立ぐんま昆虫の森における昆虫等の生育環境創出のための里山整備及び自然観察会等の環境教育プログラムの実施:里山での自然体験を通じて生物多様性への理解を広げるため、自然観察会を15回実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加校を増やすため、参加率の低い地域の学校を対象とした体験研修会の実施、市町村の校長会や教育委員会、学校等の訪問などのPR活動を実施する。ガイドハンドブックの活用によるガイド内容の均質化、充実化を図り、継続実施のための基盤づくりを行う。 ・引き続き、里山の保全に努めるとともに、自然観察会等のプログラムを積極的に実施する。
	生物多様性に関する情報の発信	<ul style="list-style-type: none"> ・環境ホームページ(ECOぐんま)の運用:群馬県の環境に関する情報を発信するためのホームページを運用し、県民の環境に対する理解を深めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係各課との連携を一層深め、内容の充実を図る。環境に関する県の施策に加え、県民の取組も積極的に発信していく。
2 緊急性の高い保全施策の実施	生物多様性の保全	<ul style="list-style-type: none"> ・希少高山植物群落保全事業:シラネアオイ等の希少高山植物をシカの食害から守るため、地元関係者と保護・復元に取り組むとともに、日光白根山弥陀ヶ池周辺及び七色平に設置した電気柵を保守管理した。 ・希少蝶類パトロール:県指定天然記念物ヒメギフチョウ等の高山蝶について、盗難防止を目的としたパトロールを保護団体等と協力して実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・シカの食害対策のため設置した電気柵の機能を十分発揮できるように引き続き保守管理を実施していく。 ・保護団体等により行われている生息調査・除伐等の環境整備等を適切な形で支援する。
	鳥獣害対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・捕獲の担い手確保対策:狩猟免許試験の休日開催や地域開催、わな免許取得者に対する技術講習会の実施、10代のわな免許試験手数料減免など、狩猟者の確保対策を実施した。 ・農作物被害対策:農業者、地域が野生鳥獣による農業被害の軽減を実感できるように、国交付金及び県単事業を活用して、地域が主体となった被害対策の取組を支援した。また、鳥獣被害対策支援センターを中心に、有害鳥獣の計画的な捕獲を推進するとともに、被害対策技術の普及や人材育成、調査研究を進めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・捕獲の新規参加者の確保のため、普及・啓発を強化する。 ・新たな地域でも農作物被害が発生してきていることから、市町村の被害防止計画に基づく地域の主体的な取組を支援するとともに、捕獲の一層の強化に取り組むなど、引き続き総合的な対策を実施する。
	外来生物対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・特定外来生物対策:新たにヒアリ、クビアカツヤカミキリについて、県ホームページにより周知を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに指定される特定外来生物に留意し、引き続き特定外来生物についての周知を図る。
	生物多様性を保全するための基盤づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・環境に配慮した河川改修:治水機能の確保に加え、周囲と調和した明度・彩度・テクスチャーを有する素材の護岸を選定するとともに、護岸天端を工夫することで景観にも配慮した。また、河川幅を十分確保することによって、河川が有している自然の復元力を活用できるように配慮した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・護岸に配慮するだけでなく、河道計画や河岸・水際部の設計についても環境上の機能を確保し、生物の育成、生息、繁殖環境を保全する。
	里山・平地林・里の水辺の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ぐんま緑の県民基金市町村提案型事業:野生獣の出没抑制など、地域の安心・安全な生活環境の改善を図るため、里山54ha、竹林30haの整備に支援した。 ・多々良沼・城沼における自然環境の再生・保全活動:多々良沼公園における自然再生・保全に向け、植物・魚類・水質等のモニタリング調査や外来種駆除を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・里山・平地林等の森林環境を改善し、安全・安心な生活環境を創造するため、引き続き支援する。また、今後も事業を活用してもらうよう周知する。 ・自然再生の取組は、継続的に実施することが重要であるため、今後も自然再生協議会の構成団体と連携を図りながら事業を推進する。
3 生物多様性の持続可能な利用の推進	生物多様性の持続可能な利用のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・芳ヶ平湿地群ワイズユース促進:ラムサール条約湿地に登録された「芳ヶ平湿地群」において地元と協力したワイズユースとして、アクセス歩道等再整備、ガイド育成及び学習プログラム作成を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・芳ヶ平湿地群環境学習を実施するための環境整備を引き続き進める。
	地域資源を活かした観光地の魅力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・千客万来支援:集客力の高いワンランク上の魅力ある観光地域を実現し、多くのリピーター(常連客)を獲得するため、地域との連携のもとに市町村や民間団体がマーケティングに基づき取り組む企画の優れたハード・ソフトの観光振興施策・事業に対し支援した。 ・文化財の保護:名勝躑躅ヶ岡のツツジ保全事業への随伴補助を行った。また、歴史文化基本構想やジオパーク事業を通じて、天然記念物を活用した地域の魅力創造を支援した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・群馬県境稜線トレイル全線開通による周辺整備、上野三碑やみなかみユネスコエコパークのユネスコ登録など観光をとりまく環境は変化しており、観光が地域経済を担う役割が大きくなっている。2020年のDC、東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて外国人観光客誘致の取組、観光のバリアフリー化への需要が高まることから、観光客の受け入れ体制整備を推進していく必要がある。 ・名勝天然記念物を活かした地域の魅力向上及び集客力の強化に係る市町村事業に対し、適切な支援をする。
4 生物多様性に関する情報の蓄積と利用環境整備	生物多様性に関する情報の蓄積	<ul style="list-style-type: none"> ・良好な自然環境を有する地域学術調査:県内の自然環境の保全のために講ずべき施策の策定に必要な基礎情報の収集を目的に、「良好な自然環境を有する地域学術調査」を群馬県自然環境調査研究会に委託して実施した。 ・自然史調査:学術調査地域を「みなかみ町及び周辺地域」に設定し、5年をかけた調査の初年度として初動調査や資料調査を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学術調査によるデータの蓄積は、施策の策定に必要な基礎情報として重要であり、今後も地道な調査活動を継続する。併せて、種の保護条例に基づく特定希少野生動物種に対するモニタリング調査の手法及び体制等を検討する。 ・計画的に対象地域に各分野の係員が調査に入り、資料の収集を行い、情報を蓄積する。
	情報の適正な利用環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・絶滅危惧動植物の保全対策:群馬県レッドデータブック改訂版掲載種のうち早急な保護対策が望まれる199種が県が行う公共工事予定地で確認された場合に、専門家による現地調査や講ずべき保護対策を検討した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絶滅危惧動植物のデータを最新のものに更新する。
5 戦略を着実に推進させる仕組みづくり	生物多様性を担う団体の活動促進	<ul style="list-style-type: none"> ・環境アドバイザー登録、支援、活躍:定期的な活動を通して、アドバイザーの環境保全意識の向上を図った。また、「みんなのゴミ減量フォーラム」により、環境活動を盛り上げた。 ・環境サポートセンターの運営:環境学習・環境活動の総合窓口として、動く環境教室の実施、環境学習資料の作成、環境活動団体の情報収集及び提供、環境アドバイザー連絡協議会事務局、こどもエコクラブ群馬県事務局等の役割を果たした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境アドバイザー制度は3年を登録期間としているが、登録更新の際に登録数が減少する傾向があるため、アドバイザーとして活動可能な新たな人材を探す必要がある。 ・県事業や環境アドバイザーの活動を更にPRするため、平成30年度はフェイスブックの運用を開始する。
	各団体の連携の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・森林ボランティア等推進:森林ボランティア支援センターを運営し、専用HP・メルマガ・情報誌による情報発信、新規加入を促進するボランティア体験会、安全講習会、作業器具の貸出し、ボランティア交流会等を行い、森林ボランティア活動を支援した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県民自らが森林や林業に関心を持ち、森林の必要性について理解を深めることが重要であることから、森林ボランティアに取り組む団体や活動機会を求める県民等への支援を行い、本県の森林整備、保全につなげていく必要がある。